

障がいを意識せず楽しめる、
三重県発祥の生涯スポーツ

三重県SSSピンポン協会

【事務局：伊勢市】



ダブルス練習中の稲毛 洋子さんと伊藤 雅彦さん

「SSピンポンは、視覚障がい者向けの競技・サウンドテーブルテニス（STT）を基に、障がい者も健常者も一緒に楽しめるように工夫した生涯スポーツです」と教えてくれるのは、同協会副代表の伊藤雅彦さん。SSピンポン考案者の一人である伊藤さんは、「三重県視覚障害者協会サウンドテーブルテニス部」部長も務め、昨秋開催の「第18回視覚障害者卓球全国大会で男子の部2位など、数々の好成績を残す実力者です。練習の合間、談笑する皆さんに話を伺うと、サウンドテーブルテニスもSSピンポンも基本的な道具や競技内容は同じとのこと。ラバーを貼らないラケットで、シャリシャリシャリ…と音の鳴るピンポン球を打ち合います。この時、卓球台から42センチメートル上げたネットの下を転がすように球を打つのが特徴です。サウンドテーブルテニスは、アイマस्क着用、専用の卓球台を使用するなど、の細かな規則が決められています。SSピンポンはアイマस्क着用無しなど、制約を極力無くしたため、より気軽に始められるといえます。

「まずは、一度体験してみても」と勧められてラケットを握ることに。審判の「ブレイ」の合図で、サーバーが「いきます」

球を打つのが特徴です。サウンドテーブルテニスは、アイマस्क着用、専用の卓球台を使用するなど、の細かな規則が決められています。SSピンポンはアイマस्क着用無しなど、制約を極力無くしたため、より気軽に始められるといえます。



ラケットと音が鳴るピンポン球

「今のいいサーブやな」「あ、アウトやったかあ」「おっ、お見事！」

梅雨空のある日、「菰野町社会福祉協

と言いつつ、「ハイ」と答えると、競技開始です。転がってくる球を、ラケットを滑らせるようにして打ち返すのですが、そのスピードは予想以上の速さ。あせって前のめりになると、ラケットが台から浮き上がり、打った球がネットにかかってしまいました。一般的な卓球との違いや奥深さを痛感しました。それでも慣れてくると、リズムよく打ち返すことができるようになります。ラリーが続くこともポイントを取った時には爽快な気分になりました。障がいの有無に関わらず、園児から90代の方まで楽しめるというのも頷けます。

協会全体の事務局は伊勢市内にありますが、練習場所は今回の菰野町をはじめとして、県内各地に及びます。日程は不定期のため、興味のある方は、場所や日程などを問い合わせることをおすすめします。

また、本年10月22日(日)には名張市で「みえスポーツフェスティバル 2023 S.S.ピンポン交流大会」が開催予定のほ

か、毎年4月には「SSピンポン祭り」、8月にはサウンドテーブルテニスのダブルス競技「Sダブルス三重大会」も開催されます。間近で競技の様子を耳聞いたりすれば、その迫力や魅力を実感するでしょう。



向かって左から稲毛 洋子さん、伊藤 雅彦さん、黒田 智子さん、中野 久恵さん



練習中の中野 久恵さんと黒田 智子(のりこ)さん



「第5回Sダブルス三重大会」での試合風景 ※



「第7回SSピンポン祭り」での試合風景 ※



「第7回SSピンポン祭り」※

お問い合わせ

三重県SSピンポン協会

村井正治代表

TEL 0596-24-5501

伊藤雅彦副代表

TEL 080-1580-0758

※印の写真は取材先から提供していただきました